

令和元年度 第3学期終業式の式辞に代えて 校長 勝見 ひろみ

新型コロナウイルスの影響拡大で、皆さんも様々な苦勞をしていることと思います。

本来ならば、終業式で皆さんの一年間の頑張りを称え、その上で、今後の皆さんの成長に期待して、いくつかの呼び掛けをするところですが、残念ながら式ができなくなりました。

そこでこの東高HPに、私からのメッセージを掲載したく思います。

真っ先にお伝えしたいこと。それは、「新年度、笑顔でお会いしましょう！」ということです。教職員一同、生徒諸君をはじめ、保護者の皆さん、そして東高に係るすべての人が、健康で登校（元気に生活）してくれることを、心から祈っています。

さて、本年度、本校が目標として掲げた漢字は「励」でした。

ですから私はことあるごとに、「励」の意味についての話をしてきました。

その一つとして、他者を励まし「(漢字のつくりの通り) 万の力」を与えられる人をめざそう、と申し上げてきましたが、この事例を2年生諸君が作ってくれたことに、私は今、大きな喜びを感じています。

その事例とは、沖縄への修学旅行に臨んだ皆さんの行動です。

最大の目的地首里城が焼失し、がっかりした方も多かったと思いますが、皆さんは生徒会の呼び掛けに応じて、首里城復興支援募金をしてくれました。そして皆、気持ちよく真心を出し合い、沖縄への土産としました。旅の中、その活動を知った現地添乗員さんが、涙ながらに感謝を伝えた言葉に心震えた皆さんは、再び募金を。真心は積み上げられ、併せて5万円余の浄財となりました。

最終日に訪れた那覇市役所では、市総務部長さんに出迎えていただき、NHK等の取材も。生徒会の諸君は緊張しながらもマスコミのインタビューに、しっかりと答えてくれました。

「私達の学校では17年にわたり、修学旅行で首里城を訪問。先輩がお世話になったお礼をしたかった」

「首里城見学を楽しみにしていたので残念だったが、再建された首里城を後輩が楽しんでくれたらうれしい」と。

その模様は即日、NHKで報道され、翌日には県紙「琉球新報」、「中日新聞」愛知県版にも掲載されました。それらの報道を目にしながら私は、諸君の行動が沖縄の人だけではなく、本県の皆さんにも、そして私たち自身にも「万の力」を与えた、と確信しました。

地域の宝を失うことのつらさを感じ、宝を守ることの大変さを知り、そして、困難に直面した隣人のために今、私達ができることはないか、と考え行動した皆さんを、心から褒め称えたい。

帰りの機内でも、ニュースを見ていたCAさんが「ありがとう」と声をかけてくれましたが、私からも改めて諸君に、「ありがとう」の言葉を贈りたく思います。

さて2点目の「励」は、自ら諸活動に励み、能力を磨き上げて「万の力」を身に付けようというものでしたね。

これについては、卒業生の皆さんの頑張りを紹介したいと思います。

一年間、朝な夕な全力で学びに挑戦した本年度の卒業生は、大学受験で見事な成果を出してくれました。

東京学芸大学、愛知県立大学、岐阜大学等、国公立大学合格の栄冠を勝ち取った15人を

はじめ、大健闘の大学受験となりました。期待を超える大躍進と遂げ、他校で学ぶ人たちを大逆転した人もあまたいたわけで、3年間の頑張りが結実した春になったと思います。

さて新3年生、新2年生の皆さん！ 自ら励み「万の力」を身に付けることを実証した卒業生の後に、しっかりと続いて行ってほしい。諸君の夢や目標の完遂へ、私たち教職員が力の限り、皆さんをサポートしたいと、改めて決意しています。

もう一つ、私が皆にお話した「励」は、「自ら進んで行う励行」の「励」でした。

誰彼ではなく自らが主体的に行うことは、皆さんにとっての「最大の課題だ」と、私は思っています。

「昨年も校長は同じような話をしたな。説教臭いな」と思う諸君もいるかもしれない。しかし、本年度を終えるに当たり、改めて、自らの主体性について考え、誰彼に言われなくとも行動する一人ひとりになることを、明年度の挑戦目標としてほしい、と私は願うのです。

確かに皆さんの中には、「本年度はしっかり勉強したぞ」と言う人もいるとは思いますが。

しかし、多くは先生に頼り切り、受身の学習ではなかったか、十分に学力をつけられたか、その点においては反省を促したいと思います。

改めて、申し上げます。

「主体的な学習、自ら挑戦する学習をする一人ひとりであってほしい」

それでは皆さん、新年度に良いスタートが切れるように、健康に留意しながら、充実した春休みを送ってください。笑顔で4月に会いましょう！